

2022、12、5

直方ミニバスケットボールクラブだより

共育コラム

“自分に勝て”

今年度になって入部してきたメンバーが、ようやくもっている力を少しずつ発揮し始め、男子は選手層に厚みを増してきました。ただ、活動に集中できるための調整につまずき成長に時間を要しています。日々の学校生活をふりかえり自らの行いを正すことで活動に集中することができます。小学校生活の○年間、自分が身につけてきた力、身につけていない力に今気づかされながら、自分で自分を鍛え直しています。

「“自分に勝て”、自分の中にある弱い自分に負けるな、弱い自分に負けたらせっかくもっているよさが出てこない。自分で自分の足を引っ張るな、自分の成長を止めるな。闘う相手は試合の相手ではない、自分自身だ」、と子どもたちに常に話しています。直方クラブ発足以来、ずっと毎年子どもたちに求め続けていることです。子どもたちは今闘いの真最中です。メンバーどうし声をかけ合いながら、ようやく立て直しの成果が出始めているところです。

今は意識しなければできず、日々努力もしていると思います。しかし、習慣化すれば意識も努力も必要なく、それがあたりまえのこととしてできるようになります。そこまでいけば、生活、活動が安定し、心身の成長発達が促され、思考力、判断力、行動力の向上が加速します。学力向上に日々の基本的な生活行動や習慣が影響していることは、この間の教育研究で実証済みです。具体的内容としては、意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力などで、専門用語にはなりますが「非認知能力」と言われるものです。ここを改善・向上させずに知識注入だけしても定着しません。小学校卒業までに子どもたちが身につけておいた方がいい力です。この力も学力です。点数にあらわされているものだけが学力ではありません。この力を身につけていれば、その子のよさが最大限発揮され、その子らしい成長を遂げていくことができます。

6年生にとっての活動期間はあと4か月になっています。とりわけ、今年度入部の子どもたちは、基本プレーの不十分さは否めませんが、やはり6年生という時期の身体と体力の成長発達、もちまへの運動能力に伴う技術の伸びにはめざましいものがあります。鍛えれば鍛えるほど伸びます。まだまだ大きなノビシロがあり、あと4か月で卒業させるのがもったいないほどです。学校生活を軸とした日々の生活行動や習慣が安定してくると、その伸びは一層加速します。一日一日の生活を大切にするので、短期間ではあっても大きな成長を遂げて巣立ってほしいと思っています。

自分一人の力で成長することはできません。子どもたちどうしがかかわり合い、サポートし合いながら、互いに成長していきます。私の役割は、助言しながら、その動きを生み出し、導き出し、継続的にサポートしていくことです。引き続き子どもたちの日々の格闘をサポートしていきます。

